

令和7年度 研究成果概要一覧

	主要テーマ	研究成果の概要
平松 喜代江 教授	社会的養護を経て大学等へ進学した若者の学業継続と生活支援	本研究は、社会的養護下から大学へ進学した4名への面接調査を通じ、大学卒業に向けた支援課題を明らかにした。進学には奨学金や継続養育が大きく寄与し、在学中は相談できる支援者の存在が安心感を与えていた。卒業後の進路は多様であり、安定した住居・食事の保障や「つかず離れず」の支援体制、ロールモデルとの出会いが重要であることが示唆された。
徳増 全矢 教授	・非認知能力を基盤とした教育開発の展望について ・幼児教育と社会のつながりにおける現状と展望について ・ピア・サポート概念による関係性構築の実践について	非認知能力に関する研究を重ね、非認知能力の一つとされているレジリエンスの概念を用い、学生の現状を把握し実践に活用した。そこで得た見地をフリーマージン等でも提案した。市町村とのつながりを深め、本学客員教授である浦中こういち氏がコーディネイターを務める大紀町の取り組みをまとめ、地方自治体が子育てを中心に町作りを行う様子を報告した。今後も継続して関わり、地方創生の一助として行きたい。ピア・サポートの概念を用いた関係性作りの活動を、高校での講演や学童保育職員対象の講演・研修などで実践した。対同僚、対保護者等の関わりにおいて、今後多くの方に生かされるようにしていき、変化などを分析して最終的には論文化していく予定である。
鈴木 建生 教授	協同学習におけるコーチングスキルの活用。保育におけるインプロ教育の探究。	コーチングスキルを毎回、反復トレーニングすることにより、質問と傾聴の対話能力の開発を行うことができた。(定性的評価) また、インプロ教育の探究においては、インプロゲームワークショップを行い、実践的に体感することができた。
安藤 恭子 教授	形や色を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる将来の保育者としての能力を培うための教材の開発研究	乳幼児の発達段階に合った形と色に関わる教材の開発をすすめた。とりわけ、授業構成にアクティブラーニングを効果的に取り入れ、自ら求め磨き合って高まる作品作りが学生の授業への充実感として現れた。
田中 裕子 教授	「教育におけるICT活用への期待と可能性②」	本年度は「サウンド×ICTによる応答型デジタル壁面」をテーマに、三重県立みえこどもの城と松阪市A保育園の協力を得て実践的検証を行った。みえこどもの城での実演と来場者アンケートを通じ、幼児の感性や興味の喚起効果を検討した。 成果の一部は日本保育学会第78回大会で発表し、関連研究として「壁面構成の教育的役割の変容」を分析し、ユマニテック短期大学紀要に論文としてまとめた。
水野 友美 准教授	①アレルギー疾患患者（乳児～成人）のアンメットニーズとその解決法の可視化に関する研究 ②ハンセン病治療行動要因と服薬アドヒアランスとの相関関係 ③「豊かな人間性」と「確かな技術」の育成に向けた保育士養成の実践と課題：ジェネリックスキルの成長分析と学生の語りから	①本研究は、アレルギー疾患をもつ幼い子どもの育児に伴う母親の見えにくい心理社会的負担を評価するため、新たな6項目尺度「BALM尺度」を開発・検証した。49項目の候補質問を用いた全国規模の横断調査（母親854名）をもとに、多変量解析で育児ストレスと独立に関連する項目を抽出した。BALM得点はPSI-SFと強く相関し、妥当性と予測精度が確認された。またクラス分析により、負担の質が異なる3つの母親プロフィールが明らかとなり、特に機能的ヘルスリテラシーの違いが負担の差異に関連していた。BALM尺度は、診療現場で母親の潜在的負担を簡便に捉える有用なツールとなり得ることが示された。 ②インドネシアにおけるハンセン病患者の受診遅延（Case Detection Delay: CDD）に着目し、症状自覚から相談、伝統医療利用、医療機関受診、治療継続に至る多段階の治療行動を統合的に分析する探索的研究である。治療体制が整備されつつも新規患者数が世界第3位で診断遅延が深刻なインドネシアを対象に、CDDの分布、阻害因子・促進因子、臨床所見、服薬アドヒアランスとの関連を明らかにする。得られた知見は、制圧後も偏見が残存した日本の教訓を踏まえ、将来的にガーナに応用し、スティグマが顕在化する前段階で地域に受容されるリスクコミュニケーション方策の構築に資する。今年度は、科研費申請のテーマとし申請をした。 ③本研究は、ユマニテック短期大学幼児保育学科の教育目標である「豊かな人間性」と「確かな技術」が学生の学びの中でどのように育成されているかを検証するため、PROGアセスメントの縦断データ（1・2年次、N=47）と2年生3名のインタビューを用いて定量・定性の両面から分析した。定量分析では、対人基礎力、共感・受容、討議、統率力、課題発見力などが有意に向上し、人間性に関わる能力の成長が顕著であった。一方、構想力や計画立案力など思考系リテラシーは伸び悩み、「確かな技術」の育成に課題が示された。質的分析からは、実習や集団活動における衝突や気づきを契機に、自己を客観視し他者を受容する姿勢へと変容する共通プロセスが確認された。以上より、本学教育は対人面の成長に効果を示す一方、計画・構想力育成の強化が求められることが明らかとなった。
仲森 みどり 准教授	発達障害児及びその保護者への支援	発達障害と愛着の問題が保育や教育現場等においてしばしば混同され、適切な理解や支援が困難になっている現状について文献検討を行った。発達障害と愛着障害は発症要因こそ異なるものの、行動面で類似した特徴を示すため、両者を峻別する視点が不可欠である。特に、発達障害に起因する行動は主として認知や行動の問題として理解されるのに対し、愛着の問題に起因する行動は感情の未発達や不安定さの表れており、支援の焦点が異なることが示唆された。
中村 真緒 助教	領域「表現」と小学校体育科の関連性と幼小連携－身体表現領域に着目して－	幼児教育と小学校教育の教育内容・指導方法の体系的な接続が不十分であり、現場では具体的な接続方法が求められている。先行研究では接続に関する報告はあるものの、領域「表現」と小学校体育科「表現リズム遊び」に焦点を当てた研究は少ない。身体表現は感性や表現力を育む重要な活動であり、幼児期から小学校、さらに中学校ダンスへと連続する学びの基盤となる。本研究では両者の教授内容を比較し、共通点を抽出することで接続に必要な手立てを検討した。その結果、両者には感性・表現力の育成という共通目標があり、幼児期の「豊かな感性と表現」が小学校の表現活動へ発展し得ることが示された。一方で、身体表現の苦手意識は心理・社会的要因が複合的に関与するため、技術指導だけでなく心理的支援など多面的な支援も必要である。以上より、幼児・小学校・中学校を分断せず、発達段階に応じて身体表現の経験を積み重ねられる環境づくりが重要である。保育者・教員養成においても、身体表現に関する知識と指導技術を備えた指導者の育成が求められる。今後は、小学校体育科に着目し研究を進めていく。
渡辺 ユリナ 助教	音楽表現教育における保育者と小学校教員の「豊かな表現」観接続のための理論的・実証的研究	幼保と小学校が円滑な接続を果たせるような、連続性、一貫性をもった音楽表現プログラムの創出を目指す理論的な枠組みを得るために、音楽表現教育観について、「領域表現」のねらい、「音楽科」の目標に共通して用いられる言葉「豊かな表現」を観点として、それぞれの職員がもつ価値観、発達観を捉え、幼保小をつなぐ音楽活動の可能性を探る。具体的には、①音楽表現教育における「豊かな表現」の概念の具体化②独自に作成する映像を用いたフォーカスミーティングを実施し、多声的エスノグラフィーによる分析から双方の共通点・相違点を検討し、学びの本質への双方の理解の共有を促す。

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 3 月 23 日

職名 教授

氏名 平松 喜代江

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	社会的養護を経て大学等へ進学した若者の学業継続と生活支援
---------	------------------------------

研究成果の概要

1. 学会発表
1) 平松喜代江, 堅田明義 ¹ 「社会的養護経験者の大学卒業に向けた支援課題ー社会的養護下から大学へ通学経験のある青年を中心にー」日本社会福祉学会 第73回秋季大会 令和7年10月 @同志社大学
2. 論文(学会誌・紀要)
1) 平松喜代江「社会的養護経験者の大学卒業に向けた支援課題ー社会的養護下から大学へ通学経験のある青年を中心にーChallenges in Supporting University Completion for Youth with Experiences in Social CareFocusing on Those Who Attended College after Leaving Out-of-Home Care」ユマニテク短期大学紀要 Vol.10、2026年3月.
2) 平松喜代江、徳増全矢、水野友美、樋口暁美「「豊かな人間性」と「確かな技術」の育成に向けた保育士養成の実践と課題:ジェネリックスキルの成長分析と学生の語りから」ユマニテク短期大学紀要 Vol.10、2026年3月.
3. その他 講座
1) 三重県放課後児童支援員等研修「こども家庭福祉施策と放課後児童クラブ」2025年7月
2) 三重県放課後児童支援員等研修・資質向上研修「家庭における養育状況の理解」2025年7月
3) 認定NPO法人ひだまりの丘 第2回リーダー研修「子育て家庭の現状と社会的養護～子どもを取り巻く環境を理解する～」2026年1月29日、北生涯学習センター.
4) 認定NPO法人ひだまりの丘 つくしんぼ学童クラブ指導員研修「子育て家庭の現状と保護者への対応」2026年3月15日、常盤コミュニティーセンター.
1 中部学院大学 特命教授
※()に本数をご記入ください。
著書(0) 学術論文(2) 学会発表等(1) その他(4)
国際活動の有無(あり・なし) 社会的活動の有無(あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2026年3月23日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報(研究アイデア、知財情報、個人情報)の記載は行わないようご注意ください

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 3 月 24 日

職名 教授

氏名 徳増 全矢

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	① 幼児期における非認知能力の育成に関する研究 ② 子育てと社会教育力との関係性に関する研究 ③ ネイチャーゲームを用いた環境学習に関する研究 ④ ピア・サポートを用いた学習環境構築に関する研究 ⑤ 実習生の評価および実習に対する意識に関する研究
---------	---

研究成果の概要

- ①非認知能力に関する文献研究を進めた。得られた見地をもとに、子育てファミリー応援フリーマガジン「きらきら」にレジリエンスに関するコラムを投稿した。さらなる研鑽が必要であり、今後も見地を深める。
- ②子育てと社会の関係性を見ていく上で、特任教授の浦中こういち氏が保育コーディネイターを務める大紀町の保育に視点を当てた町づくりに関する取り組みをまとめ、共同研究という形をとって日本保育学会中部ブロック研究大会で発表を行った。来年度も継続して取り組む。
- ③今年度、ネイチャーゲームリーダーの認定講習を本学で開催することが出来た。来年度以降は、活躍の場として本学主催のネイチャーゲームイベントを開催し、資格の啓蒙と卒業生のスキルアップに活用していく。植木屋「伸松園」での活動でも子ども対象にネイチャーゲームを実施した（児童 20 名程度参加）。
- ④ピア・サポートの概念を活用して、高大連携授業などで実践を行った。また、亀山市内の学童保育所職員 80 名を対象とした研修で「保護者理解と人間関係づくり」の講演を行った。来年度は、みえアカデミックセミナーの講師もピア・サポートの概念を紹介する形をとる予定である。ピア・サポート学会にも加入した。
- ⑤IR 推進室として、本学の学生の状況を PROG とインタビューを用いて分析し、本学の研究紀要に掲載した。学生の状況が把握でき、実習指導のみならず学生指導全般に生かせる知見が得られた。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ ） 学術論文（ 1 ） 学会発表等（ 1 ） その他（ 3 ）

国際活動の有無（あり・☐なし） 社会的活動の有無（☒あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3.17	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 3 月 31 日

職名 教授

氏名 鈴木 建生

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法 ②保育におけるインプロの効果的な活用方法
---------	---

研究成果の概要

①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

本学においては協同教育の精神（理念）を学修の根幹にすえている。つながる力を育み、自らの学びが仲間の役に立つ。仲間の学びが自分の役に立つ。自分のためにも仲間のためにも学ぼうという自他共栄の心である。そのような協同的な肯定的相互依存関係を作ることが民主・共生社会の基盤となる価値観を醸成する。協同学習の学習方法は幼児教育でも有効である。ひとりで考える個人思考➡仲間と意見交換をする集団思考➡そして、もう一度自分で振り返る個人思考(リフレクション)という学習プロセスは効果的で普遍的な学修方法である。授業においてもペアワーク、グループワークなどを多用する。そのような場において、情報伝達の際に発信側の意図と受信側の解釈に相違があるミスコミュニケーションが発生したり、対話が曖昧なまま進められ、深い学びを引き起こせなかったりすることが観察される。本年度も「教育方法と技術」「教職概論」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業するために、質問対話の基本スキルである「質問・傾聴・承認」のコーチングスキルを活用した対話活動を実践した。具体的には毎回、授業の始まりにおいて、コーチングのミニセッションを通して、傾聴の基本から質問スキル、承認のスキルのポイントを確認しながらスキル修得に努めた。特に日常生活の中で、学生同士のコーチングを通して、ピアサポートの実践を行った。現在その効果測定の実行計画を立案している。

②保育におけるインプロの効果的な活用方法

昨年度に引き続き、即興的コミュニケーションスキルである「インプロ」の可能性について実践的に探究した。今年度は内海隆雄氏の作成した「インプロゲーム集」をもとに授業において三時間分ワークショップを実施することができた。現在、そのリフレクションシートを分析、考察している。インプロ（即興演劇）は、保育の現場で子どもたちの創造性やコミュニケーション能力を育むために非常に効果的である。保育におけるインプロの活用方法についてインプロアカデミーの内海隆雄氏の研修内容である。1. *自由な表現を促すゲーム。子どもたちが自由に動いたり、声を出したりできるインプロゲームを取り入れることで、自己表現の幅を広げることができます。例えば、「お題に沿った動きを即興で行う」ゲームなどが効果的である。

2. 協力を学ぶ活動。グループで行うインプロゲームは、他者との協力やコミュニケーションの重要性を学ぶ機会を提供する。たとえば、ストーリーを順番に作り上げる「即興物語」などが効果的である。

3. 感情表現の練習。子どもたちがさまざまな感情を表現する練習として、特定の感情をテーマにした即興劇を行うことができる。これにより、感情の理解や共感性が育まれる。

4. 問題解決能力の向上。即興で問題を解決するシナリオを設定し、子どもたちがその場で解決策を考える活動を行うことで、創造的な思考力を養うことができる。

以上、次年度もさらに研究を継続していく所存である。

※ () に本数をご記入ください。

著書 () 学術論文 () 学会発表等 () その他 (2)

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2026/03/10	

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 3 月 5 日

職名 教 授

氏名 安藤 恭子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	形や色を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる将来の保育者としての能力を培うための教材の開発研究
---------	--

研究成果の概要

乳幼児の発達段階に合った形と色に関わる教材の開発をすすめた。とりわけ、授業構成にアクティブラーニングを効果的に取り入れ、自ら求め磨き合って高まる作品作りが学生の授業への充実感として現れた。

身近に入手出来る画材の組み合わせを工夫して学生の個に応じた指導の充実を図り成果があった。

年間を通して、諸題材では執筆している萌文書林より出版の「幼児造形の基礎」を教科書として採用し授業に生かすようにした。

学生一人一人が毎回の作品及び資料の数々を一冊のファイルにまとめることにより、学習実態の見える化を図った。その成果があり、個々の作品が向上した。

いつでも、学生のアイデアを取り入れた教材の開発ができるように、資料、素材等の収集に努め、教室の環境経営を充実させることができた。

※ () に本数をご記入ください。

著書 (2) 学術論文 (0) 学会発表等 (0) その他 (10)

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2026/3	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 3 月 23 日

職名 教授

氏名 田中 裕子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	「教育における ICT 活用への期待と可能性②」
---------	--------------------------

研究成果の概要

本年度は、「サウンド×ICT のコラボレーションから幼児の感性を育む応答型デジタル壁面の開発」を主題として研究を進めた。研究 3 年目にあたる本年度は、三重県立みえこどもの城および松阪市 A 保育園の協力を得て、応答型デジタル壁面を用いた実践的検証を行った。具体的には、三重県立みえこどもの城においてデジタル壁面の実演を実施し、来場者を対象としたアンケート調査により、幼児の感性や興味の喚起に関する効果を検討した。

これらの研究成果の一部は、日本保育学会第 78 回大会（5 月 11 日・長野県立大学）において発表した。また、関連研究として「壁面構成の教育的役割の変容」に関する分析を行い、その成果をユマニテク短期大学紀要に論文としてまとめた。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 1 ） 学術論文（ 3 ） 学会発表等（ 3 ） その他（ 4 ）

国際活動の有無 あり・なし） 社会的活動の有無 あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3 月 23 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 2 月 16 日

職名 准教授

氏名 水野友美

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①アレルギー疾患患者（乳児～成人）のアンメットニーズとその解決法の可視化に関する研究 ②ハンセン病健康行動における社会心理学的要因探索 ③豊かな人間性」と「確かな技術」の育成に向けた保育士養成の実践と課題：ジェネリックスキルの成長分析と学生の語りから
---------	---

研究成果の概要

①本研究は、アレルギー疾患をもつ幼い子どもの育児に伴う母親の見えにくい心理社会的負担を評価するため、新たな6項目尺度「BALM尺度」を開発・検証した。49項目の候補質問を用いた全国規模の横断調査（母親854名）をもとに、多変量解析で育児ストレスと独立に関連する項目を抽出した。BALM得点はPSI-SFと強く相関し、妥当性と予測精度が確認された。またクラスタ分析により、負担の質が異なる3つの母親プロフィールが明らかとなり、特に機能的ヘルスリテラシーの違いが負担の差異に関連していた。BALM尺度は、診療現場で母親の潜在的負担を簡便に捉える有用なツールとなり得る。本年度は、これらデータの整理と論文文化作業を行った。論文の最終調整が終了し、国際誌HealthPsychologyへの投稿手続き中である。

②本年度は前年度に実施したガーナでの調査に際する倫理委員会のやり直しを行った。また、将来的にガーナのハンセン病研究に転嫁できるようインドネシアでの調査実施の為の研究費申請を行った。

・「インドネシアにおけるハンセン病受診遅延と治療行動因子」科研費申請（若手）

・「皮膚に関連する顧みられない熱帯病の早期探知と早期対応」2025年度草の根技術協力事業（パートナー型）事業申請 独立行政法人国際協力機構

・水野友美「ガーナってどんなところ？ ハンセン病研究からみえたこと」みえアカデミックセミナー、2025年7月17日

③本研究は、ユマニテク短期大学幼児保育学科の教育目標である「豊かな人間性」と「確かな技術」が学生の学びの中でどのように育成されているかを検証するため、PROGアセスメントの縦断データ（1・2年次、N=47）と2年生3名のインタビューを用いて定量・定性の両面から分析した。定量分析では、対人基礎力、共感・受容、討議、統率力、課題発見力などが有意に向上し、人間性に関わる能力の成長が顕著であった。一方、構想力や計画立案力など思考系リテラシーは伸び悩み、「確かな技術」の育成に課題が示された。質的分析からは、実習や集団活動における衝突や気づきを契機に、自己を客観視し他者を受容する姿勢へと変容する共通プロセスが確認された。以上より、本学教育は対人面の成長に効果を示す一方、計画・構想力育成

の強化が求められることが明らかとなった。

- ・ 平松喜代江、徳増全矢、水野友美、樋口暁美 「豊かな人間性」と「確かな技術」の育成に向けた保育士養成の実践と課題：ジェネリックスキルの成長分析と学生の語りから」ユマニテク短期大学紀要 Vol.10、2026.3月
- ・ その他
きらきら 5月号 子育てコラム、1月号 遊び紹介、3月号 絵本紹介

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ ） 学術論文（ 1 ） 学会発表等（ ） その他（3）

国際活動の有無（あり・なし） 社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2026.2.13	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 3 月 24 日

職名 准教授

氏名 仲森 みどり

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	発達障害児の保護者への支援の在り方 愛着の視点からみる発達障害児への支援
---------	---

研究成果の概要

1. 論文

「愛着の視点からみる発達障害児への支援」

ユマニテク短期大学紀要第9号 2026年3月

本稿では、発達障害と愛着の問題が保育や教育現場等においてしばしば混同され、適切な理解や支援が困難になっている現状について文献検討を行った。発達障害と愛着障害は発症要因こそ異なるものの、行動面で類似した特徴を示すため、両者を峻別する視点が不可欠である。特に、発達障害に起因する行動は主として認知や行動の問題として理解されるのに対し、愛着の問題に起因する行動は感情の未発達や不安定さの表れであり、支援の焦点が異なることが示唆された。

2. 学童保育巡回指導支援(川越町 令和7年7月～9月)

3. 講座

令和7年度三重県児童館連絡協議会 児童厚生員等研修会講師

講演テーマ「配慮を要するこどもの対応」

※ () に本数をご記入ください。

著書 () 学術論文 (1) 学会発表等 () その他 (6)

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3/24	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報(研究アイデア、知財情報、個人情報)の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和7年度 研究概要報告書

令和7年3月5日

職名 助教
氏名 中村 真緒

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	領域「表現」と小学校体育科の関連性と幼小連携 ー身体表現領域に着目してー
---------	---

研究成果の概要

『ユマニテク短期大学紀要』ユマニテク短期大学、第9号、2026年3月。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続は、子どもの学びの連続性を保障する上で重要視されている。2017年の指導要領改訂では、幼児期と小学校教育の連携・接続が明記され、交流活動や情報共有が進んだ。しかし文部科学省（2023）は、教育課程や指導計画の編成など、接続を意識したカリキュラムの実施は十分ではないと指摘している。特に、幼児教育と小学校教育の教育内容・指導方法の体系的な接続が不十分であり、現場では具体的な接続方法が求められている。先行研究では接続に関する報告はあるものの、領域「表現」と小学校体育科「表現リズム遊び」に焦点を当てた研究は少ない。身体表現は感性や表現力を育む重要な活動であり、幼児期から小学校、さらに中学校ダンスへと連続する学びの基盤となる。本研究では両者の教授内容を比較し、共通点を抽出することで接続に必要な手立てを検討した。

その結果、両者には感性・表現力の育成という共通目標があり、幼児期の「豊かな感性と表現」が小学校の表現活動へ発展し得ることが示された。一方で、幼児期は自由な身体表現、小学校は系統的指導が求められるため、活動の性質や評価方法にギャップが生じやすい。特に、即興的な動きを小学校の表現運動へどうつなぐかについて、指導モデルや教材が不足している。また、表現活動の評価基準が曖昧で、指導が型や技術に偏ることも課題である。中学校ではダンス必修化により表現力育成が重視されているが、恥ずかしさや不安から消極になる生徒も多く、創作ダンスへの苦手意識も報告されている。身体表現の苦手意識は心理・社会的要因が複合的に関与するため、技術指導だけでなく心理的支援も必要である。以上より、幼児・小学校・中学校を分断せず、発達段階に応じて身体表現の経験を積み重ねられる環境づくりが重要である。保育者・教員養成においても、身体表現に関する知識と指導技術を備えた指導者の育成が求められる。今後は、小学校体育科に着目し研究を進めていく。

〈その他〉社会貢献活動

三重県教育委員会 幼児教育スーパーバイザー及び幼児教育アドバイザー派遣事業「リズム表現遊び」の講師

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ ） 学術論文（1） 学会発表等（ ） その他（1）

国際活動の有無（あり・なし） 社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
3/5	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和 7 年度 研究概要報告書

令和 8 年 3 月 31 日

職名 助教

氏名 平野 晃子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ

ストーリーを用いた運動指導 - インクルーシブ教育の充実に向けて -

研究成果の概要

①研究

これまで、特別支援学級（知的障害）在籍児童の英語教育について調査をしてきた。その中では、小学校交流学級教師に調査し、絵本やお話を活用した活動が知的障害のある児童が参加する交流学級での英語授業において、有意義であるという肯定的な意見が多かった。また、その成果として、小学校英語におけるインクルーシブ教育の実現可能性も示唆することができた。

現在の日本では、障害者の権利に関する条約や障害者差別解消法を受けて、インクルーシブ教育の実現が求められている。体育は、先行研究において、障害のある児童が特に参加のしやすい教科である。また、絵本やお話を用いることで、通常学級の児童はもとより、障害のある児童も参加のしやすい授業になることが予想される。そこで、今後は、ストーリーを用いた体育指導について研究を深めていく予定である。

本年度は、先行研究に目を通し、質問紙調査の内容を検討した。

②社会貢献活動

三重県児童厚生員等研修 講師

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 0 ）学術論文（ 0 ）学会発表等（ 0 ）その他（ 1 ）

国際活動の有無（あり・なし） 社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/10	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご注意ください。

ユマニテク短期大学

令和7年度 研究概要報告書

令和8年 3月 25日

職名 助教

氏名 渡辺 ユリナ

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	音楽表現教育における保育者と小学校教員の「豊か」観接続のための理論的・実証的研究
---------	--

研究成果の概要

今年度は、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) の研究テーマ「音楽表現教育における保育者と小学校教員の「豊か」観接続のための理論的・実証的研究」(課題番号: 22K02533) に取り組んだ。

本研究では、幼・保と小学校が円滑な接続を果たすために、音楽表現教育において共通の言葉として用いられる「豊か」の概念を具体化し、それを観点として、保育者と小学校教員の音楽観、発達観を明示し、連続性や一貫性をもった音楽表現教育プログラムの創出を目指す基礎・理論的な枠組みを提案することを目的とした。最終年度にあたり、研究結果を日本保育学会第78回大会にて発表した。

※ () に本数をご記入ください。

著書 () 学術論文 () 学会発表等 (1) その他 ()

国際活動の有無 (あり・なし) 社会的活動の有無 (あり・なし)

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap (https://researchmap.jp/) へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新していただきますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
令和8年 3月25日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報(研究アイデア、知財情報、個人情報)の記載は行わないようご注意ください。